

5. 6年国語科学習指導案

1. 単元名と目標

5年 二 本の世界を深めよう

「雪わたり」宮沢 賢治 作

～教科書の作品をきっかけとして、同じ作者や同じテーマの作品に興味をもち、読書発表会をとおして考えを広げたり深めたりする。

6年 二 本の世界を深めよう

「きつねの窓」安房 直子 作

～自分の興味や関心を広げたりするために、必要な図書を選んで読み、自分の意見や感想を、その本の内容を工夫しながら話す。

2. 単元について

《5年》

「雪わたり」は、美しい雪の野原を背景に、子ぎつねと人間の子どもとの心温まる交流を描いた作品である。また、四郎とかん子の歌には賢治独特のリズムがあり、声を出して読み、その面白さを味わわせたい作品でもある。

本単元は、「雪わたり」を通して読書に親しみ、いろいろな作品を読んだり紹介し合ったりすることで考えを広げたり深めたりすることが目標になっている。したがって、登場人物の心情を深く考えるよう場面場面を細かく読み取るのではなく、登場人物の心情を考えながらも作品の面白さを味わわせるように心がけたい。

研究仮説との関わりでは、会話文を中心としてどのように音読するかを考えることで登場人物の心情にせまるようにし、想像力や表現力を養いたい。また、自分の考えをまとめて発表できるようなノート作りを心がけたい。

《6年》

「きつねの窓」は、日常と非日常で構成される世界の中で、子ぎつねと「ぼく」の会話を通して想像世界を広げることができるファンタジー作品である。

本単元は、5年生同様に読書関連教材であり、この作品を通して読書に親しみ、必要な図書を選んで読み、自分の意見や感想、その本の内容を話すことが目標になっている。ここでは、5年生同様に作品の面白さを味わうことを大切にしたい。

研究仮説との関わりも、5年生と同様に音読を重視した授業を進めることで、想像力や表現力を養うようにし、どのように音読するかという自分なりの考えを発表できるようなノート作りを心がけたい。

3. 児童の実態

(略)

4. 単元全体の指導計画

(5年生) 11時間扱い

時	目標と評価規準
1	<p>・「学習のとびら」を読み、単元について話し合い、学習全体の見通しを持つ。</p> <p>・登場人物や場面構成の確認をする。</p> <p>(関心・意欲・態度) 興味をもって物語を読み、表現の優れたところに気づき作品を味わおうとしている。(態度・音読)</p>
2	<p>・紺三郎と仲良くなるまでの四郎とかん子の気持ちを想像しながら音読する。</p> <p>(書くこと) 四郎、かん子の気持ちを根拠に基づいて想像し、自分の考えを書いている。(ノート)</p> <p>(読むこと) それぞれの場面における登場人物の心情を捉えている。(ノート・発表)</p> <p>(読むこと) 登場人物の心情が表れるように工夫して音読している。(音読)</p>
3	<p>・紺三郎、四郎、かん子の歌のリズムを楽しみながら音読する。</p> <p>(関心・意欲・態度) 進んで練習に取り組み、リズムを楽しんでいる。(態度・音読)</p>
4 (本時)	<p>・幻灯会での四郎やかん子の気持ちや、きびだんごを食べてもらったときのきつねたちの気持ちを想像しながら音読する。</p> <p>(書くこと) 四郎、かん子の気持ちを根拠に基づいて想像し、自分の考えを書いている。(ノート)</p> <p>(読むこと) それぞれの場面における登場人物の心情を捉えている。(ノート・発表)</p> <p>(読むこと) 登場人物の心情が表れるように工夫して音読している。(音読)</p>
5	<p>・読書発表会の目的や方法について理解し、テーマを決めて、本を選ぶ。</p> <p>(関心・意欲・態度) 自分の読書体験をふり返り、進んでテーマを決めようとしている。(態度・発表)</p>
6～10	<p>・本を読んだり、発表に向けて発表原稿を整理したりする。</p> <p>(関心・意欲・態度) テーマに合った読書を進め、感想や考えを発表原稿にまとめようとしている。(態度・ノート)</p>
11	<p>・ブックトークによる読書発表会を行い、自分の考えをわかりやすく伝えたり、友だちの考えを正しく聞き取ったりする。</p> <p>(話すこと・聞くこと) テーマに合った発表を相手にわかりやすい構成で伝えている。また、友だちの発表を聞いて正しく評価している。(発表)</p>

(6年生) 1 1時間扱い

時数	目標と評価規準
1	・「学習のとびら」をもとに、学習の見通しをもったり、学習のねらいを確認したりする。 ・「きつねの窓」を読んで、登場人物を確認し、あらすじを捉えることで作品の特性や構成に気づく。 (関心・意欲・態度) 座談会に向けて読書計画を立てている。(発表) (読むこと) ファンタジー作品の特性を捉え、「きつねの窓」の構成を捉えている。
2	・「子ぎつね」と会話をする、「ぼく」の心情の変化を想像して音読する。 (読むこと) 「ぼく」の心の動きを叙述に即して読み取っている。(ノート・発表) (読むこと) 「ぼく」の心情が表れるように工夫して音読している。(音読)
3 (本時)	・窓に映ったものを見たときの「ぼく」の心情を想像しながら音読する。 (読むこと) 「ぼく」の心の動きを叙述に即して読み取っている。(ノート・発表) (読むこと) 「ぼく」の心情が表れるように工夫して音読している。(音読)
4	・「窓」を失ったあとも、指で窓を作ってみる「ぼく」の心情を想像しながら音読する。 (読むこと) 「ぼく」の心の動きを叙述に即して読み取っている。(ノート・発表) (読むこと) 「ぼく」の心情が表れるように工夫して音読している。(音読)
5～10	・テーマに即して自分の興味のある本を探して読み、発表の準備をする。 (関心・意欲・態度) 読書座談会に興味をもち、テーマに沿った本を探し進んで読もうとしている。(態度)
1 1	・読書座談会を行い、自分の考えをわかりやすく人に伝えたり、人の考えを正しく聞き取ったりする。 (話すこと・聞くこと) テーマに合わせて、自分の意見や感想をわかりやすく話している。(発表)

5. 本時の目標

《5年》

・ 幻灯会での四郎やかん子の気持ちや、きびだんごを食べてもらったときのきつねたちの気持ちを想像しながら音読する。

《6年》

・ 窓に映ったものを見たときの「ぼく」の心情を想像しながら音読する。

6. 本時の活動（5年生 4 / 1 1 6年生 3 / 1 1）☆～教師の関わり

段階	5年生の活動・評価規準	わり	6年生の活動・評価規準	段階
つ か む	○学習する場面を読み、工夫して音読した い場面を探し、サイドラインを引く。 ☆きびだんごをすすめられた四郎やかん子 の様子やきびだんごを食べてもらったとき のきつねたちの様子に注意させる。		○前時に学習した場面を音読する。 ・「ぼく」の心情があらわれるような読み 方を工夫する。	ま と め る
よ み と る	○サイドラインを引いたところをどのよう に読むか、登場人物の心情を考えながらま とめる。 ☆「喜んで」「あんまりうれしくて」などの 言葉に注目させる。 (読) それぞれの場面における登場人物の 心情をとらえているか。(ノート)		○学習する場面を読み、工夫して音読し たい場面を探し、サイドラインを引く。 ☆「ぼく」の行動を確認させてから、考 えさせる。	つ か む
た し か め る	○まとめたことを発表する。 ☆自分の考えと比べながら、発表を聞くよ うにさせる。 (話) 自分の考えをわかりやすく話してい るか。(発表)		○サイドラインを引いたところをどのよう に読むか、登場人物の心情を考えなが らまとめる。 ☆きつねの窓をのぞいたときと、自分の 窓をのぞいたときとをまとめられるよう にする。 (読) 「ぼく」の心の動きを叙述にそって 読み取っているか。(ノート)	よ み と る
ま と め る	○音読の仕方を考えた場面を工夫して音読 する。 ☆それぞれの心情や歌のリズムに気をつけ させる。		○まとめたことを発表する。 ☆自分の考えと比べながら、発表を聞く ようにさせる。 (話・聞) 自分の考えをわかりやすく話 したり、友だちの考えを正しく聞くこと ができたか。(発表)	た し か め る

7. 本時の評価

《5年》

・ 幻灯会での四郎やかん子の気持ちや、きびだんごを食べてもらったときのきつねたちの気持ちを想像しながら音読することができたか。

《6年》

・ 窓に映ったものを見たときの「ぼく」の心情を想像しながら音読することができたか。

資料

音読の工夫「子どもたちのノートから」

〈5年〉

「みなさん。今晚のげん灯はこれでおしまいです。今夜みなさんは、…。」

・大ぜいによびかけるように。四郎とかん子に感謝するように。…閉会の辞。きつねの出したものを食べてくれたから。

〈6年〉

「そんなら、すぐにお染めいたします。そこに手を広げてください。」

・うれしそうに…お客さんに染め物の注文をうけたから。

手を染めさせてくれるから。

「鉄砲？そりゃちょっと……。」

・困ったように…次に困ったと書いてある。

・おどろいたように…きつねをころすやつだからおどろいた。

「毎度、ありがとうございます。」

・明るく…店員のあいさつのように。

・うれしそうに…鉄砲をくれたから。

鉄砲をもらってうれしい。